

新年1発目は。。

東京、朝日、日経、  
毎日、読売、産経

# 新年新聞各紙の主張

1月1日から1月7日までの新聞各紙の社説から  
各社の原発に関する主張を抜き出してみました。

▼この期間の社説に「原発」の話題が出なかったのは

## 日経

▼原発推進バリバリなのは

## 産経

1月4日主張

「原発再生元年 核燃サイクルで活路開け再処理工場の稼働が急がれる」

(前略)

原発の再稼働が1日遅れるごとに、50基合計で毎日100億円の国富が消えることを忘れてはならない。社会は、時間を軸に回っている。規制委も健全な時間感覚を身につけなければ、適切な規制を行えない。

規制委の指示に従い、電力会社は津波やテロなどに対する大規模な工事などを集中的に実施したではないか。規制委も速やかな審査で応えるべきである。

規制委が安全審査を終えないと、原発は再稼働に進めない。安全性が確認された原発を順次発電に復帰させ、電気代の再値上げを回避したい。景気浮揚には安定した電力供給が不可欠だ。

完成の域に達している日本原燃の再処理工場（青森県六ヶ所村）の安全審査も、着実に進めてもらいたい。原発で使い終えた燃料を再利用する核燃料サイクルは、資源に乏しいわが国の活路を開くエネルギー戦略だ。

(中略)

太陽光や風力発電への期待も高いが、再生可能エネルギーだけでの電力生産には限度がある。現代社会は、大量のエネルギーの土台の上に構築されている。それを忘れれば、日本の先進国としての存続さえ危うくなる。理性あるエネルギー再建に向かう出発の年としたい。

## 読売

1月1日社説

「日本浮上へ総力を結集せよ」

原子力発電所は全50基が停止している。電力不足を火力発電所のフル稼働で補うため、液化天然ガスなど輸入発電燃料の追加負担は1日100億円に上る。国富が資源国に余計に流出している。安全が確認できた原発を着実に再稼働させなければならない。

(中略)

安倍政権は1月中に閣議決定するエネルギー基本計画で、原発を「重要なベース電源」と位置づける。民主党政権の無責任な「原発ゼロ」路線と決別し、新增設に含みを残した点は支持したい。

日本は世界有数の原子力技術を保持している。安全な次世代型原発の新增設は、人材維持・育成の観点からも必要だ。原発のインフラ輸出を成長にも生かしたい。

1月7日社説

「首相年頭会見 「好循環」を看板倒れにするな」

原発を代替する火力発電の燃料費増で、電気料金が値上がりし、企業活動や家庭に悪影響を及ぼしている。首相は再稼働の必要性について丁寧に説明し、地元の理解を得なければならない。

▼いまいち主張がはっきりしないのは

## 毎日

1月7日社説

「原発の安全審査 避難計画の作成が先だ」

(前略)

政府は、安全審査に加え、自治体の避難計画作成と実効性の確保も再稼働の必要条件だと明言すべきだ。

(中略)

新規基準は達成すべき最低限のものだ。安倍政権も原発依存度を引き下げる方針を掲げる。ならば、事故のリスクと共存する中で、原発をどれだけ動かす必要があるかを政府主導で見極め、地震の恐れや老朽化の度合いが高い原発から順次廃炉にしていくのが筋である。

(後略)

▼もう一つはっきりしないのは

# 朝日

1月6日社説  
「原発政策 政治の無責任は許されぬ」

(前略)  
 安倍政権は、表面的には「原発比率を下げる」と言いつつ、原発を「重要なベース電源」と位置づけ、規制委の基準に適合した原発は動かす方針だ。  
 しかし、規制委が判断するのは科学的な根拠にもとづく最低限の安全確認にすぎない。事故リスクがゼロにならない以上、口先だけではなく、「原発比率を下げる」手立てを総合的に講じるのが政治の役割だ。  
 そうした見取り図も示さず、再稼働の判断はすべて規制委に丸投げし、そこへの圧力めいた動きは放置する。なし崩し的な原発回帰と言うほかない。  
 再稼働への政権の姿勢が原発政策を無責任に「元に戻す」典型だとすれば、「元のままでやり過ごす」無責任の象徴が、使用済み核燃料を再処理して使うサイクル事業の維持である。  
 巨額のコストがかかり、資源の有効活用という意義がなくなった核燃サイクル事業は、「撤退」が世界の流れだ。  
 (中略)  
 原発事故の後始末で、国は一步前へと出る決断をした。原発政策全体についても、責任放棄は許されない。

▼はっきり脱原発なのは

# 東京

1月1日社説  
「人間中心の国づくりへ」

脱原発も人間社会からの要請です。十万年も毒性が消えない高レベル放射性廃棄物の排出を続けるのは無責任、倫理的にも許されません。コスト的にも見合わないことがはっきりしてきました。

1月4日社説  
「福島への想い新たに」

時間を押し戻そうとするかのような北風が、年の瀬を駆け抜けました。三度目の年頭。もう一度、心に深く刻まなければなりません。福島を忘れない。  
 (中略)  
 原発は金のかかる危険なものだということに、国民の多くはもう気づいているはずですが。温暖化対策ならば、再生エネルギーの普及の方が王道です。私たちは“太陽と風の年”をめざしましょう。  
 (後略)

## おまけ



昨年(2013年)の12月22日に大規模な抗議集会がこの国会周辺でおこなわれました。報道によると主催者発表で参加者1万5千人。翌日の朝刊各紙(先の6紙)の扱いは?

### 日経

記事の実物大

社会面  
 12文字×12行  
 3.5×5.5cm(タテ×ヨコ)

### 東京

カラー写真

1面  
 10文字×38行  
 21×13.5cm

「原発ゼロ撤回」批判 1万5千人、国会前デモ

産経  
読売  
毎日

扱いなし

### 朝日

白黒写真

「原発回帰計画に抗議」

社会面  
 16文字×12行  
 12.5×13cm